

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年10月14日

【四半期会計期間】 第11期第3四半期(自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日)

【会社名】 株式会社 T & C ホールディングス

【英訳名】 T&C HOLDINGS, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 田中茂樹

【本店の所在の場所】 東京都港区芝浦一丁目12番3号

【電話番号】 03-5443-7489

【事務連絡者氏名】 取締役 松本貞子

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝浦一丁目12番3号

【電話番号】 03-5443-7489

【事務連絡者氏名】 取締役 松本貞子

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第10期 第3四半期連結 累計期間	第11期 第3四半期連結 累計期間	第10期 第3四半期連結 会計期間	第11期 第3四半期連結 会計期間	第10期
会計期間	自 平成21年 12月1日 至 平成22年 8月31日	自 平成22年 12月1日 至 平成23年 8月31日	自 平成22年 6月1日 至 平成22年 8月31日	自 平成23年 6月1日 至 平成23年 8月31日	自 平成21年 12月1日 至 平成22年 11月30日
売上高 (千円)	685,747	436,030	240,434	143,151	850,913
経常損失() (千円)	204,041	214,562	76,561	49,231	287,552
四半期(当期)純損失() (千円)	58,137	238,099	87,084	64,622	202,459
純資産額 (千円)			993,536	237,670	838,351
総資産額 (千円)			1,938,670	1,014,291	1,761,535
1株当たり純資産額 (円)			24,522.63	11,477.24	17,469.37
1株当たり四半期(当期)純損失金額() (円)	3,721.88	11,497.94	5,041.00	3,120.64	11,987.74
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)			26.2	23.4	20.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	179,336	144,589			244,129
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	92,213	33,554			82,440
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	93,780	157,831			141,310
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)			75,769	24,069	45,916
従業員数 (名)			51	50	46

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第10期第3四半期連結累計(会計)期間は潜在株式がないため、第10期及び第11期第3四半期累計(会計)期間は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。
また、主要な関係会社についても、異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年8月31日現在

従業員数(名)	50
---------	----

(注) 従業員数は就業人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年8月31日現在

従業員数(名)	8
---------	---

(注) 従業員数は就業人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは製品の生産を行っていないため、記載すべき事項はありません。

(2) 受注実績

当社グループは受注生産を行っていないため、記載すべき事項はありません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
投資情報提供事業	125,828	
金融アドバイザー事業	12,168	
ライセンス事業	5,154	
合計	143,151	

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC.	61,346	25.5	-	-
株式会社QUICK	25,784	10.7	16,103	11.2

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
4 第5 経理の状況 追加情報に記載のとおり、株式会社QUICKについては第1四半期連結会計期間より売上高の計上方法の変更をしております。なお、従来の方法によった場合の販売額は21,864千円、割合は14.4%であります。

2 【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

- (1) 当第3四半期連結会計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更は以下のとおりであります。

映画制作費

当社グループでは、金融アドバイザー事業において映画ファンドを組成するために活用したSPCを支配力基準に基づき連結の範囲に含めておりました。そのため、これらのSPCの資産を映画制作費として計上したことにより、当該資産が減損処理の対象となるような場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があるとしておりましたが、第2四半期連結会計期間より、これらのSPCを連結の範囲から除外したことに伴い、映画制作費は計上されないことから当該リスクを削除いたしました。

- (2) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第3四半期連結累計期間におきまして、営業損失156,936千円、経常損失214,562千円、四半期純損失238,099千円を計上し、平成20年11月期連結会計年度より引続き営業損失を計上しております。また、営業活動によるキャッシュ・フローも144,589千円と同連結会計年度より引続きマイナスとなっております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

また、金融機関からの借入金の返済につきましては、一定期間にわたる借入金の返済猶予を前提とした資金計画を立案し、当社の事業計画に基づき事業活動に影響のない範囲で借入金の返済を行なっていく予定であり、各金融機関ごとに同意を得ている状況であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成23年6月29日開催の取締役会において、当社グループの投資情報提供事業会社の組織再編について決議し、平成23年6月30日付で合併契約書を締結しております。なお、その合併の日は平成23年9月1日の予定であります。

その主な内容は次のとおりであります。

(1) 当社を存続会社、(株)T&C FIホールディングスを消滅会社とする吸収合併を行い、(株)T&C FIホールディングスは解散。

(2) (株)T&Cフィナンシャルリサーチを存続会社、(株)T&Cフィナンシャルテクノロジーズを消滅会社とする吸収合併を行い、(株)T&Cフィナンシャルテクノロジーズは解散。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

1. 提出会社の代表者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間における我が国経済は、東日本大震災の影響による電力不足の懸念、世界的な景気減速懸念や財政不安、長期化する円高やデフレの進行により、先行きの見えない状況のまま推移いたしました。海外の株式市場においては、ギリシャ問題に端を発した欧州債務懸念が深刻化し、7月下旬にかけては世界的な株安となりました。こうした影響から我が国の株式市場も低迷を余儀なくされ、日経平均株価は8,955円で当第3四半期連結会計期間末を迎えました。

当社グループの事業領域である金融業界においては、資金供給が潤沢に行われることで金融不安の鎮静化が図られて参りましたが、ギリシャを始めとした欧州の財政問題や、米国経済の先行き不透明感の高まり等を背景に再び不安定化する局面も見られ、金融市場の健全化に向けた動きは道半ばの状況です。

当社グループは、このような環境下、中立性の高い投資情報をタイムリーに投資家の皆様にお届けし、資産形成に役立てていただけるよう、更なるコンテンツの充実と品揃え強化に取り組んでおります。しかしながら、業績につきましては、金融機関のコスト削減などの影響を拭いきれず、低迷を余儀なくされました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は143,151千円（前年同四半期比97,282千円の減少）、営業損失は42,792千円（前年同四半期比3,275千円の減少）、経常損失は49,231千円（前年同四半期比27,330千円の減少）、四半期純損失は64,622千円（前年同四半期比22,462千円の減少）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。前年同四半期比につきましては、前年同四半期連結会計期間分を新事業区分に組み替えて記載しております。

投資情報提供事業

当第3四半期連結会計期間においては、国内の中国株情報提供の大口解約の影響が尾を引くとともに、為替・国際金融情報提供においても為替証拠金業者の再編や業界への規制強化の流れの中で、売上が前年同四半期を下回る状況が続きましたが、ETF投資情報提供を本格的にスタートさせております。なお、第1四半期連結会計期間より、一部の売上について売上高の計上方法を変更し純額を計上したことに伴い、従来の方法に比べ「売上高」及び「販売費及び一般管理費」が9,199千円減少しております。なお、営業利益、経常利益及び四半期純利益への影響はありません。一方、コスト削減策は着実に成果を示しております。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間における投資情報提供事業の売上高は125,828千円（前年同四半期比32,525千円の減少）、営業利益は22,044千円（前年同四半期比2,017千円の減少）となりました。

金融アドバイザー事業

金融アドバイザー事業においては、ファンドの契約残高が伸び悩み管理料収入が前年同四半期を下回りました。なお映画ファンド組成のためのSPC 2社を連結の範囲から除外したことに伴い売上高が減少致しましたが、売上原価も同額減少するため利益への影響はありませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間における金融アドバイザー事業の売上高は12,168千円（前年同四半期比63,972千円の減少）、営業利益については4,679千円（前年同四半期比3,370千円の増加）となりました。

ライセンス事業

ライセンス事業においては、当社保有の特許を有する滅菌器の販売が順調に推移しました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間におけるライセンス事業の売上高は5,154千円（前年同四半期比404千円の増加）、営業損失については395千円（前年同四半期比404千円の減少）となりました。

上記各事業の営業利益から、当社グループ管理業務にかかる費用を控除した結果、当第3四半期連結会計期間における営業損失は42,792千円（前年同四半期比3,275千円の減少）となりました。これは、継続的なコスト削減を実施して参りましたが、売上減収分を吸収するには至らなかったことに起因します。

また、経常損失につきましては支払利息7,109千円などを計上した結果、49,231千円（前年同四半期比27,330千円の減少）となり、四半期純損失については、64,622千円（前年同四半期比22,462千円の減少）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて222,310千円増加し、651,479千円となりました。これは主に、SPCを連結の範囲から除外したことによるもので、営業投資有価証券が244,715千円、売掛金が29,966千円増加したことが原因となっております。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて969,555千円減少し、362,811千円となりました。これも主にSPCを連結の範囲から除外したことに伴い、映画制作費が584,359千円、投資有価証券が224,487千円、関係会社長期貸付金が132,388千円減少したことに拠ります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて、747,244千円減少し、1,014,291千円になりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて305,613千円増加し775,217千円となりました。これは主に、短期借入金が16,376千円減少しましたが、1年内返済予定の長期借入金が311,082千円増加したことが原因となっております。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて452,176千円減少し、1,403千円となりました。これは主に長期借入金が311,082千円、SPCを連結の範囲から除外したことにより長期預り金が141,858千円減少したことが原因となっております。

なお、「1年内返済予定の長期借入金」及び「長期借入金」は、当社グループの事業計画に基づいて各金融機関と返済条件を交渉しておりますが、最終的に合意するまでは期限を1年内に区切って契約しております。前連結会計年度末においては、当社グループの事業計画に基づいた返済金額をそれぞれに計上しておりましたが、当第1四半期連結会計期間末より、契約に基づいた金額を計上しております。これにより1年内返済予定の長期借入金が311,082千円増加し、長期借入金が同額減少しております。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて、145,562千円減少し、776,620千円になりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて600,681千円減少し、237,670千円となりました。これは主に、少数株主持分が476,596千円、利益剰余金が200,486千円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第2四半期連結会計期間末に比べて29,391千円減少し、24,069千円となりました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は、57,249千円（前年同期比609千円の増加）となりました。これは、支払利息7,109千円などによる増加があったものの、税金等調整前四半期純損失60,080千円などによる減少があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は、8,684千円(前年同期比43,476千円の減少)となりました。これは、関係会社貸付けによる支出8,809千円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は、34,811千円(前年同期比135,964千円の減少)となりました。これは、短期借入金の純増額34,811千円があったためであります。

2. 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク (2) 継続企業の前提に関する重要事象等」に記載の通り、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実施しておりますが、これらのうち資金調達については、現在交渉中であり先方との最終的な合意が得られていない事項が含まれております。また、その他の対応策についても継続して実行中ではあるものの今までのところ十分な成果が得られていない事項が含まれております。従って、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

投資情報提供事業の収益力を高めるための取組み

投資情報コンテンツのプロフェッショナル性を高めることにより価格競争が激化する業界での優位性を確立し、積極的な営業活動を行なうことで投資情報提供事業の収益性を高めてまいります。具体的には、今後更に需要が期待される国際分散投資に資するレポートのクオリティアップと金融機関向け販売の強化、為替情報および中国株情報における新規サービスを活用した国内外での販路の拡大、米国株の個別銘柄レポート、外国証券情報の作成等、当社グループの強みを生かした商品ラインナップの拡充を図ってまいります。また、個人投資家からの認知度の高いトレーダーズ・ウェブをはじめとする個人投資家向け投資情報ポータルサイトを統合し、有効活用することにより、広告収入を含めた売上拡大に取組んでまいります。

E T F 事業の強化と事業基盤の拡大

今後のE T F 市場の拡大を視野にE T F に関する情報提供を戦略商品と位置づけ、国内外での営業活動を開始し収益の拡大に結びつけてまいります。具体的には、米国でE T F の格付、データベースを提供しているMarco Polo XTF, Inc. を子会社化し米国でのE T F 情報提供サービスに積極的に取組んでまいります。また、国内ではMarco Polo XTF, Inc. との連携を強化し、E T F に関する投資情報、コンサルティングサービス等を機関投資家、金融機関、証券取引所等に提供してまいります。当社グループのキャッシュ・フローの安定化、収益の拡大、事業価値の増大に寄与する可能性のある施策を様々な角度から検討し、さらなる事業基盤の拡大を進めてまいります。

複合的な事業構造確立による収益の安定化を目指した事業基盤の拡大

これまでの中核事業である、投資情報提供事業、金融アドバイザー事業に加えて、前連結会計年度において、主に医療機器の製造販売を行う株式会社メディエートを持分法適用関連会社とし、新たな事業基盤として医療機器 - 滅菌器製造販売 - 事業へ進出致しました。これにより、外部金融環境に左右されにくい安定成長を確保する事業ポートフォリオを構築し、安定的な収益、キャッシュ・フローの確保を目指してまいります。

リストラの徹底および強固な財務基盤の確立の実現に向けての諸施策への取組み

A. コスト削減

当社グループでは前々連結会計年度より、役員報酬および従業員給与の削減を行なっておりますが、さらに組織・業務の見直しによるコスト削減を進めております。前連結会計年度においては、国内連結会社の本社オフィスの移転を行いました。今後も引き続き不要不急な経費の抑制に努めてまいります。

B. 資産の売却・資金調達

当社グループでは、事業基盤強化・拡大を目的に投資してきた資産について、所期の目的を達成したもから順次売却することにより手元資金の流動性を高めてまいりました。前連結会計年度においては、中国及びシンガポールの投資情報提供会社2社の株式売却が完了いたしました。また、2度の第三者割当増資を実行し、財務基盤の安定に努めました。現在も事業活動を安定的に行なうための資金を確保するために、資本政策も含めた新たな資金調達の検討及び交渉を引き続き進めてまいります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,928
計	50,928

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年10月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,708	20,708	大阪証券取引所 JASDAQ (グロース)	権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式。単元株制度を採用していないため、単元株式数はない。
計	20,708	20,708		

(注) 発行済株式のうち1,015株は、現物出資(デット・エクイティ・スワップ 33,495千円)によって発行されたものであります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年8月31日		20,708		819,663		601,871

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年5月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,708	20,708	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式			
発行済株式総数	20,708		
総株主の議決権		20,708	

【自己株式等】

平成23年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 12月	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
最高(円)	85,000	78,000	77,000	70,000	73,000	69,500	64,500	67,500	67,000
最低(円)	67,600	61,500	67,400	60,000	58,100	61,100	62,000	60,600	59,000

(注) 株価は、大阪証券取引所 J A S D A Q (グロス) におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役		吉田 恒	平成23年5月18日

第5 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成22年6月1日から平成22年8月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年12月1日から平成22年8月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年12月1日から平成23年8月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成22年6月1日から平成22年8月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年12月1日から平成22年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表については、東陽監査法人により四半期レビューを受け、当第3四半期連結会計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年12月1日から平成23年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清和監査法人により四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第10期連結会計年度 東陽監査法人

第11期第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間 清和監査法人

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,069	45,916
売掛金	143,769	113,802
たな卸資産	¹ 2,318	¹ 7,403
営業投資有価証券	276,489	31,774
関係会社短期貸付金	88,969	114,924
その他	115,862	115,347
流動資産合計	651,479	429,168
固定資産		
有形固定資産	² 21,339	² 26,792
無形固定資産		
のれん	-	262
映画制作費	-	584,359
特許権	159,100	175,750
その他	8,862	16,541
無形固定資産合計	167,962	776,913
投資その他の資産		
投資有価証券	0	224,487
関係会社株式	127,137	121,614
関係会社長期貸付金	-	132,388
その他	109,732	113,826
貸倒引当金	63,360	63,656
投資その他の資産合計	173,510	528,661
固定資産合計	362,811	1,332,366
資産合計	1,014,291	1,761,535

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,260	11,954
短期借入金	233,479	249,855
1年内返済予定の長期借入金	331,080	19,998
未払法人税等	12,025	21,265
前受金	29,821	33,968
返品調整引当金	2,670	2,250
その他	159,879	130,311
流動負債合計	775,217	469,603
固定負債		
長期借入金	-	311,082
その他	1,403	142,497
固定負債合計	1,403	453,579
負債合計	776,620	923,183
純資産の部		
株主資本		
資本金	819,663	819,663
資本剰余金	601,871	601,871
利益剰余金	1,137,290	936,804
株主資本合計	284,244	484,730
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,412	1,677
為替換算調整勘定	48,986	124,652
評価・換算差額等合計	46,573	122,974
少数株主持分	-	476,596
純資産合計	237,670	838,351
負債純資産合計	1,014,291	1,761,535

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
売上高	685,747	436,030
売上原価	377,867	264,634
売上総利益	307,879	171,395
返品調整引当金戻入額	3,458	2,250
返品調整引当金繰入額	2,763	2,670
差引売上総利益	308,574	170,976
販売費及び一般管理費	427,271	327,912
営業損失()	118,696	156,936
営業外収益		
受取利息	1,445	2,515
受取賃貸料	810	1,218
その他	516	376
営業外収益合計	2,772	4,110
営業外費用		
支払利息	17,607	19,212
持分法による投資損失	55,627	32,263
その他	14,881	10,261
営業外費用合計	88,116	61,737
経常損失()	204,041	214,562
特別利益		
関係会社株式売却益	424,117	-
特別利益合計	424,117	-
特別損失		
固定資産除却損	5,448	4,105
関係会社株式売却損	111,064	-
本社移転費用	9,335	-
附帯税	6,950	-
貸倒引当金繰入額	33,014	-
前払費用償却損	-	10,849
特別損失合計	165,811	14,954
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	54,263	229,516
法人税、住民税及び事業税	9,441	9,017
法人税等調整額	116,467	902
法人税等合計	125,908	9,919
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	239,436
少数株主損失()	13,507	1,337
四半期純損失()	58,137	238,099

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
売上高	240,434	143,151
売上原価	155,031	81,634
売上総利益	85,403	61,517
返品調整引当金戻入額	3,458	1,805
返品調整引当金繰入額	3,332	2,670
差引売上総利益	85,529	60,653
販売費及び一般管理費	131,597	103,446
営業損失()	46,068	42,792
営業外収益		
受取利息	535	887
受取賃貸料	264	310
その他	56	30
営業外収益合計	856	1,228
営業外費用		
支払利息	5,611	7,109
持分法による投資損失	11,557	4,419
為替差損	10,528	4,693
その他	3,651	283
営業外費用合計	31,350	7,667
経常損失()	76,561	49,231
特別損失		
固定資産除却損	5,448	-
本社移転費用	9,335	-
附帯税	2,500	-
前払費用償却損	-	10,849
特別損失合計	17,283	10,849
税金等調整前四半期純損失()	93,844	60,080
法人税、住民税及び事業税	1,167	4,541
法人税等調整額	311	-
法人税等合計	855	4,541
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	64,622
少数株主損失()	7,615	-
四半期純損失()	87,084	64,622

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	54,263	229,516
減価償却費	11,793	8,628
のれん償却額	611	87
特許権償却額	16,650	16,650
映画制作費償却額	61,346	-
営業投資有価証券評価損益	-	15,520
返品調整引当金の増減額(は減少)	694	419
貸倒引当金の増減額(は減少)	33,310	296
受取利息	1,445	2,515
支払利息	17,607	19,212
固定資産除却損	5,448	4,105
関係会社株式売却損益(は益)	313,052	-
為替差損益(は益)	8,337	8,490
持分法による投資損益(は益)	55,627	32,263
売上債権の増減額(は増加)	17,151	31,748
たな卸資産の増減額(は増加)	3,064	5,084
仕入債務の増減額(は減少)	1,122	5,694
未払金の増減額(は減少)	46,802	11,389
前受金の増減額(は減少)	15,163	4,120
未払消費税等の増減額(は減少)	6,968	2,394
その他	15,377	30,418
小計	119,390	119,227
利息及び配当金の受取額	405	454
利息の支払額	18,628	12,867
法人税等の支払額	41,722	12,949
営業活動によるキャッシュ・フロー	179,336	144,589
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	8,830	1,096
無形固定資産の取得による支出	11,906	-
敷金及び保証金の差入による支出	27,348	-
敷金及び保証金の回収による収入	301	-
関係会社貸付けによる支出	52,839	42,989
貸付金の回収による収入	26,000	10,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	225,760	-
関係会社株式の取得による支出	78,949	-
関係会社株式の売却による収入	20,079	-
その他	53	531
投資活動によるキャッシュ・フロー	92,213	33,554

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	24,420	157,831
長期借入金の返済による支出	40,666	-
株式の発行による収入	158,867	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	93,780	157,831
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,030	1,410
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,627	21,723
現金及び現金同等物の期首残高	74,141	45,916
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	123
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 75,769	1 24,069

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結累計期間(自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)

当社グループは、当第3四半期連結累計期間におきまして、営業損失156,936千円、経常損失214,562千円、四半期純損失238,099千円を計上し、平成20年11月期連結会計年度より引続き営業損失を計上しております。また、営業活動によるキャッシュ・フローも144,589千円と同連結会計年度に引続きマイナスとなっております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

また、金融機関からの借入金の返済につきましては、一定期間にわたる借入金の返済猶予を前提とした資金計画を立案し、当社の事業計画に基づき事業活動に影響のない範囲で借入金の返済を行なっていく予定であり、各金融機関ごとに同意を得ている状況であります。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実施しておりますが、これらのうち資金調達については、現在交渉中であり先方との最終的な合意が得られていない事項が含まれております。また、その他の対応策についても継続して実行中ではあるものの今までのところ十分な成果が得られていない事項が含まれております。従って、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

投資情報提供事業の収益力を高めるための取組み

投資情報コンテンツのプロフェッショナル性を高めることにより価格競争が激化する業界での優位性を確立し、積極的な営業活動を行なうことで投資情報提供事業の収益性を高めてまいります。具体的には、今後更に需要が期待される国際分散投資に資するレポートのクオリティアップと金融機関向け販売の強化、為替情報および中国株情報における新規サービスを活用した国内外での販路の拡大、米国株の個別銘柄レポート、外国証券情報の作成等、当社グループの強みを生かした商品ラインナップの拡充を図ってまいります。また、個人投資家からの認知度の高いトレーダーズ・ウェブをはじめとする個人投資家向け投資情報ポータルサイトを統合し、有効活用することにより、広告収入を含めた売上拡大に取組んでまいります。

E T F 事業の強化と事業基盤の拡大

今後のE T F市場の拡大を視野にE T Fに関する情報提供を戦略商品と位置づけ、国内外での営業活動を開始し収益の拡大に結びつけていく計画であります。具体的には、米国でE T Fの格付、データベースを提供しているMarco Polo XTF, Inc. を子会社化し米国でのE T F情報提供サービスに積極的に取組んでまいります。また、国内ではMarco Polo XTF, Inc. との連携を強化し、E T Fに関する投資情報、コンサルティングサービス等を機関投資家、金融機関、証券取引所等に提供してまいります。また、当社グループのキャッシュ・フローの安定化、収益の拡大、事業価値の増大に寄与する可能性のある施策を様々な角度から検討し、さらなる事業基盤の拡大を進めてまいります。

複合的な事業構造確立による収益の安定化を目指した事業基盤の拡大

これまでの中核事業である、投資情報提供事業、金融アドバイザー事業に加えて、当連結会計年度において、主に医療機器の製造販売を行う株式会社メディエートを持分法適用関連会社とし、新たな事業基盤として医療機器 - 滅菌器製造販売 - 事業へ進出致しました。これにより、外部金融環境に左右されにくい安定成長を確保する事業ポートフォリオを構築し、安定的な収益、キャッシュ・フローの確保を目指してまいります。

リストラの徹底および強固な財務基盤の確立の実現に向けての諸施策への取組み

A. コスト削減

当社グループでは前々連結会計年度より、役員報酬および従業員給与の削減を行なっておりますが、さらに組織・業務の見直しによるコスト削減を進めております。前連結会計年度においては、国内連結会社の本社オフィスの移転を行いました。今後も引き続き不要不急な経費の抑制に努めてまいります。

B. 資産の売却・資金調達

当社グループでは、事業基盤強化・拡大を目的に投資してきた資産について、所期の目的を達成したもとの順次売却することにより手元資金の流動性を高めてまいりました。前連結会計年度においては、中国及びシンガポールの投資情報提供会社2社の株式売却が完了いたしました。また、2度の第三者割当増資を実行し、財務基盤の安定に努めました。現在も事業活動を安定的に行なうための資金を確保するために、資本政策も含めた新たな資金調達の検討及び交渉を引き続き進めております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至 平成23年8月31日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>1. 連結の範囲の変更 連結財務諸表に及ぼす影響力を勘案し、支配力及び影響力の見直しを行った結果、当社は実質支配力がないことから、第2四半期連結会計期間より、T&C Ventures, Ltd.、T&C Media Content, Ltd. 及びAnimals LLC を連結の範囲から除外しております。</p> <p>2. 変更後の連結子会社の数 12社</p>
2. 持分法の適用に関する事項の変更	<p>1. 持分法適用関連会社の変更 連結の範囲の変更に伴い、第2四半期連結会計期間より、American Mall LLC 及びHappy Cat LLC を持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>2. 変更後の持分法適用関連会社の数 2社</p>
3. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>1. 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。 これによる営業損失、経常損失及び四半期純損失に与える影響はありません。</p> <p>2. 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。 これによる営業損失、経常損失及び四半期純損失に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年12月1日 至 平成23年8月31日)
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失()」の科目で表示しております。

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日)
(四半期連結貸借対照表関係) 前第3四半期連結会計期間において、流動資産の「その他」に含めていた「関係会社短期貸付金」は金額的な重要性が増したことから、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することにしております。なお、前第3四半期連結会計期間の流動資産の「その他」に含まれる「関係会社短期貸付金」は、90,043千円であります。
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失()」の科目で表示しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年12月1日 至 平成23年8月31日)
1. 従来、投資情報提供事業の売上において、一部の販売先に係る販売手数料を含めて総額により計上していましたが、契約内容の見直しを行ったことに伴い、第1四半期連結累計期間より純額表示することとなりました。これにより従来の方法に比べ、「売上高」が29,027千円減少し「販売費及び一般管理費」が同額減少しております。
2. 「1年内返済予定の長期借入金」及び「長期借入金」は、当社グループの事業計画に基づいて各金融機関と返済条件を交渉しておりますが、最終的に合意するまでは期限を1年以内に区切って契約しております。前連結会計年度末においては、当社グループの事業計画に基づいた返済金額をそれぞれに計上していましたが、第1四半期連結会計期間末より、契約に基づいた金額を計上しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年8月31日)	前連結会計年度末 (平成22年11月30日)
1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 製品 2,243千円 仕掛品 75千円	1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 製品 3千円 仕掛品 7,399千円
2 有形固定資産の減価償却累計額は54,359千円であります。	2 有形固定資産の減価償却累計額は49,744千円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 役員報酬 91,141千円 給料手当 82,190千円	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 役員報酬 78,166千円 支払報酬 73,243千円 給与手当 59,017千円

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 役員報酬 29,867千円	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 役員報酬 23,463千円 支払報酬 23,761千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年8月31日現在) 現金及び預金 75,769千円 預入期間が3か月超の定期預金 現金及び現金同等物 75,769千円	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年8月31日現在) 現金及び預金 24,069千円 預入期間が3か月超の定期預金 現金及び現金同等物 24,069千円
2 第2四半期連結累計期間に出資持分の譲渡により連結子会社でなくなったFinancial China Information & Technology Co., Ltd.の資産及び負債の主な内訳 流動資産 86,219千円 固定資産 45,325千円 流動負債 69,652千円 固定負債 為替換算調整勘定 594千円 少数株主持分 11,853千円 差引 49,443千円 関係会社株式売却益 424,117千円 出資持分譲渡価額 473,561千円 前連結会計年度における前受金による収入 192,613千円 現金及び現金同等物 55,187千円 差引連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 225,760千円	2

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年8月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年12月1日
至平成23年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	20,708

2. 自己株式の種類及び株式数

該当事項はありません。

3. 新株予約権の四半期連結会計期間末残高等

ストック・オプションとしての新株予約権

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5. 株主資本の著しい変動

第2四半期連結会計期間より、T&C Ventures, Ltd. 及びT&C Media Content, Ltd. を連結の範囲から除外したことに伴い、利益剰余金の当期変動額に連結除外による増加高37,613千円を計上しております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年6月1日 至 平成22年8月31日)

	投資情報 提供事業 (千円)	金融アドバイ ザリー事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	158,354	76,140	5,939	240,434		240,434
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	158,354	76,140	5,939	240,434		240,434
営業利益又は営業損失()	24,061	1,309	3,243	22,127	(68,196)	46,068

(注) 1 事業区分は、サービスの内容、提供先、市場の類似性を考慮して区分しております。

(1) 投資情報提供事業.....日本株情報提供、中国株情報提供、為替・国際金融情報提供

(2) 金融アドバイザー事業.....アドバイザー業務、コンサルティング業務、責任投資業務

(3) その他の事業.....ライセンス事業、エンターテインメント事業

2 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い、投資情報提供事業の売上高及び営業利益は前第3四半期連結会計期間に比べ著しく減少しております。

また、投資情報提供事業の資産の金額は、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分の譲渡及び持分法適用関連会社であった NextVIEW Pte Ltd の株式の売却により、前連結会計年度末に比べ著しく減少しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年12月1日 至 平成22年8月31日)

	投資情報 提供事業 (千円)	金融アドバイ ザリー事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	547,642	102,320	35,783	685,747		685,747
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	547,642	102,320	35,783	685,747		685,747
営業利益又は営業損失()	86,022	7,666	6,724	86,964	(205,661)	118,696

(注) 1 事業区分は、サービスの内容、提供先、市場の類似性を考慮して区分しております。

(1) 投資情報提供事業.....日本株情報提供、中国株情報提供、為替・国際金融情報提供

(2) 金融アドバイザー事業.....アドバイザー業務、コンサルティング業務、責任投資業務

(3) その他の事業.....ライセンス事業、エンターテインメント事業

2 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い、投資情報提供事業の売上高及び営業利益は前第3四半期連結累計期間に比べ著しく減少しております。

また、投資情報提供事業の資産の金額は、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分の譲渡及び持分法適用関連会社であった NextVIEW Pte Ltd の株式の売却により、前連結会計年度末に比べ著しく減少しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年6月1日 至 平成22年8月31日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	欧州 (千円)	ケイマン諸 島(千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	163,104	1,189	14,369	61,771	240,434		240,434
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	7,202	7,615			14,818	(14,818)	
計	170,307	8,804	14,369	61,771	255,253	(14,818)	240,434
営業利益又は 営業損失()	31,723	11,928	7,599	10,111	46,164	95	46,068

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い、所在地別セグメントの「中国」につきましては実績が無くなったため、記載しておりません。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年12月1日 至 平成22年8月31日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	中国 (千円)	欧州 (千円)	ケイマン諸 島(千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	503,511	20,543	61,160	38,760	61,771	685,747		685,747
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	15,938	24,221	1,704	92,170		134,035	(134,035)	
計	519,449	44,765	62,864	130,931	61,771	819,782	(134,035)	685,747
営業利益又は 営業損失()	84,357	28,924	6,967	109,003	15,373	26,618	(92,078)	118,696

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い「中国」につきましては前第3四半期連結累計期間に比べ著しく減少しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年6月1日 至 平成22年8月31日)

	アジア	ケイマン諸島	その他の地域	計
海外売上高(千円)	133	13,348	63,980	77,462
連結売上高(千円)				240,434
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.1	5.5	26.6	32.2

- (注) 1 国又は地域の区分は地理的近接度によっています。
- 2 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
アジア・・・中国
その他の地域・・・米国、英国、スイス
- 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。
- 4 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い、「アジア」につきましては前第3四半期連結会計期間に比べ著しく減少しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年12月1日 至 平成22年8月31日)

	アジア	ケイマン諸島	その他の地域	合計額
海外売上高(千円)	61,593	39,726	81,348	182,668
連結売上高(千円)				685,747
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.0	5.8	11.8	26.6

- (注) 1 国又は地域の区分は地理的近接度によっています。
- 2 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
アジア・・・中国
その他の地域・・・米国、英国、スイス
- 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。
- 4 第2四半期連結会計期間において、Financial China Information & Technology Co., Ltd. の全出資持分を譲渡したため連結の範囲から除外しております。これに伴い、「アジア」につきましては前第3四半期連結累計期間に比べ著しく減少しております。

【セグメント情報】

(追加情報)

第 1 四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、サービスの内容、提供先、市場の類似性を考慮した事業別のセグメントに区分しており、「投資情報提供事業」「金融アドバイザー事業」「ライセンス事業」の3つを報告セグメントとしております。

事業区分	事業内容
投資情報提供事業	投資情報コンテンツの作成・配信・販売
金融アドバイザー事業	ファンドの管理・運用、投資スキーム等のアドバイザー業務
ライセンス事業	保有する特許権の運用

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第 3 四半期連結累計期間(自 平成22年12月 1 日 至 平成23年 8 月31日) (単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	投資情報 提供事業	金融アドバイ ザリー事業	ライセンス 事業	計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	374,837	40,457	20,735	436,030		436,030
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	374,837	40,457	20,735	436,030		436,030
セグメント利益又は損失()	49,733	13,429	4,085	40,388	197,324	156,936

(注)1 セグメント利益の調整額 197,324千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 197,324千円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の管理部門にかかる費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、第 2 四半期連結会計期間より、T&C Ventures, Ltd.、T&C Media Content , Ltd. 及びAnimals LLCについては連結の範囲から除外しております。これに伴い、金融アドバイザー事業の資産の金額は、前連結会計年度末に比べ著しく減少しております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日) (単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	投資情報 提供事業	金融アドバイ ザリー事業	ライセンス 事業	計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	125,828	12,168	5,154	143,151		143,151
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	125,828	12,168	5,154	143,151		143,151
セグメント利益又は損失()	22,044	4,679	395	26,328	69,121	42,792

(注)1 セグメント利益の調整額 69,121千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 69,121千円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の管理部門にかかる費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、第2四半期連結会計期間より、T&C Ventures, Ltd.、T&C Media Content, Ltd. 及びAnimals LLCについては連結の範囲から除外しております。これに伴い、金融アドバイザリー事業の資産の金額は、前連結会計年度末に比べ著しく減少しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

営業投資有価証券は企業集団の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

なお、投資有価証券(市場価格がなく時価を把握することが困難である非上場株式は除く)、関係会社長期貸付金、長期預り金は企業集団の運営において重要なものとなっておりますが、一部子会社の連結除外により当第3四半期連結会計期間末においてはなくなりました。

(単位:千円)

科目	四半期連結 貸借対照表計上額	時価	差額	算定の方法
営業投資有価証券	276,489	276,489	-	(注)

(注) 其他有価証券として保有しており、時価評価できるものは時価評価を行い計上しております。

(資産除去債務関係)

当社グループは、本社の賃貸借契約及び海外子会社の賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復義務を有しておりますが、賃借資産の使用期間が明確でないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年8月31日)	前連結会計年度末 (平成22年11月30日)
1株当たり純資産額 11,477.24円	1株当たり純資産額 17,469.37円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
1株当たり四半期純損失金額 3,721.88円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。	1株当たり四半期純損失金額 11,497.94円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式がないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失() (千円)	58,137	238,099
普通株式に係る四半期純損失() (千円)	58,137	238,099
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	15,620	20,708

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
1株当たり四半期純損失金額 5,041.00円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。	1株当たり四半期純損失金額 3,120.64円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式がないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 又は純損失() (千円)	87,084	64,622
普通株式に係る四半期純利益 又は純損失() (千円)	87,084	64,622
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	17,275	20,708

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日)

1. 当社は、平成23年9月1付で当社グループの投資情報提供事業会社の組織再編を行いました。

(1) 目的

国内における投資情報提供市場は、情報の選別や金融機関のコスト削減から業界内の競争は激化し、情報提供各社ではコンテンツ力の強化による他社との差別化が重要課題となっております。当社グループではこれらの課題に加え、急激な市場環境の変化にも対応しやすくするため、既存のサプライ・チェーンを見直し、組織再編を行いました。

(2) 要旨

当社を存続会社、(株)T&C FIホールディングスを消滅会社とする吸収合併を行い、(株)T&CFIホールディングスは解散。

(株)T&Cフィナンシャルリサーチを存続会社、(株)T&Cフィナンシャルテクノロジーズを消滅会社とする吸収合併を行い、(株)T&Cフィナンシャルテクノロジーズは解散。

2. 当社は、平成23年9月7日付で、米国NYにおいてETFに関するデータベース及びレーティング等の投資情報サービス提供を行う持分法適用関連会社であるMarco Polo XTF, Inc. の株式を取得し、連結子会社といたしました。

(1) 異動前の所有株式数：250,000株(所有割合：20%)

(2) 取得株式数：759,321株(取得価額：774千USドル)

(3) 異動後の所有株式数：1,009,321株(所有割合：74.47%)

3. 当社は、平成23年9月7日開催の取締役会において、平成23年11月4日開催予定の当社臨時株主総会における承認を条件として、第三者割当による新株式発行を決議いたしました。平成23年10月12日開催の取締役会において、当該新株式発行の中止を決議いたしました。

(1) 発行株式の種類・数：普通株式 5,617株

(2) 払込金額：1株につき金55,000円

(3) 払込金額の総額：308,935,000円

内161,400,000円は現物出資(デッド・エクイティ・スワップ)の払込方法による

(4) 発行価額のうち資本へ組入れる額：154,467,500円

(5) 申込期日：平成23年11月4日

(6) 払込期日：平成23年11月7日

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年10月12日

株式会社T & Cホールディングス

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高木 康行 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 米林 喜一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社T & Cホールディングスの平成21年12月1日から平成22年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成22年6月1日から平成22年8月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年12月1日から平成22年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社T & Cホールディングス及び連結子会社の平成22年8月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追加情報

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は、第3四半期連結累計期間において、前々連結会計年度、前連結会計年度より引続き営業損失及びマイナスの営業活動によるキャッシュ・フローを計上し、一部の債務が延滞している状況にあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年10月14日

株式会社 T & C ホールディングス
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 南方美千雄 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 江黒崇史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 T & C ホールディングスの平成22年12月1日から平成23年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年12月1日から平成23年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 T & C ホールディングス及び連結子会社の平成23年8月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

1. 継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は、平成20年11月期連結会計年度から引き続き、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上している。また、金融機関からの借入金について返済期日の延長と返済条件の変更を行っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在している。当該状況により、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

2. 重要な後発事象に記載されているとおり

- 1) 会社は平成23年9月1日付でグループの投資情報提供会社の組織再編を行った。
- 2) 会社は平成23年9月7日付で、持分法適用会社であるMarco Polo XTF, Inc.の株式を取得し、連結子会社とした。
- 3) 会社は平成23年9月7日開催の取締役会において、平成23年11月4日開催予定の臨時株主総会における承認を条件として、第三者割当による新株式発行を決議したが、平成23年10月12日開催の取締役会において、当該新株式発行の中止を決議した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。